ニチレイグループ
CSRレポート2016

〈コミュニケーション版〉

株式会社ニチレイ

目次

01 目次／会社概要

02 ニチレイグループの事業概要

03 ニチレイグループの企業経営理念

04 CSR推進体制／
ニチレイグループ「6つの責任」

05 トップメッセージ

08 特集
「おいしい瞬間を届けたい」を
実践するために

09 特集1
安全・安心な商品をお届けするための
ニチレイグループのこだわり
工場編 物流編

13 特集2
持続可能な調達を目指した
ニチレイグループの取り組み

15 特集3
社内の対話を重視した
コミュニケーション活動

17 2015年度活動トピックス

18 編集方針／
Webサイト・PDFのご案内

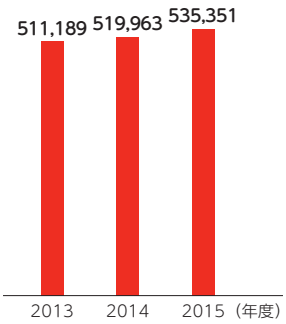
会社概要 (資本金および従業員数は2016年3月末日現在)

商　　号	株式会社ニチレイ
創　　立	1945(昭和20)年12月1日
資 本 金	30,307百万円
従業員数	14,118名(連結)
本社所在地	〒104-8402 東京都中央区築地六丁目19番20号 ニチレイ東銀座ビル
電話番号	03-3248-2101(代表)

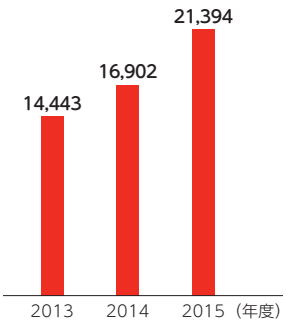
連結業績の推移

(単位:百万円)

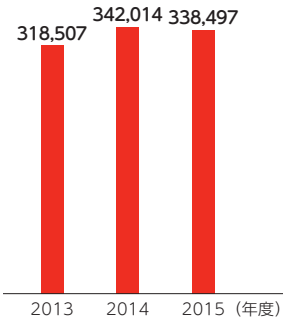
売上高



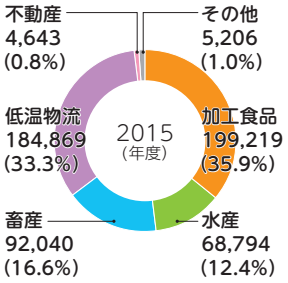
経常利益



総資産



セグメント別売上高構成比



* 調整額(事業間の内部売上高または振替高のため除く)▲19,422

* 2015年度より、売上の計上基準について会計方針の変更を行っており、2014年度については当該会計方針の変更を反映した遡及修正後の数値を記載しております。

ニチレイグループの事業概要

株式会社ニチレイ

［持株会社］

代表取締役社長：大谷 邦夫　資本金：30,307百万円

ニチレイグループ全体を統括する持株会社として、グループ全体の経営プランニング・モニタリング・資金調達・各事業会社の経営支援の機能を有し、企業価値の最大化を目指した組織運営を推進しています。またグループが保有する土地などの資産を有効活用する不動産事業を運営しています。

株式会社ニチレイフーズ

［加工食品事業］

代表取締役社長：池田 泰弘　資本金：15,000百万円

人々のくらしを見つめ、食を通じ健康で豊かな社会の実現に貢献することを目指し、「おいしさ」「健康」「楽しさ」「安全・安心」「簡単・便利」「安定供給」「適正価格」を7つの基本価値としています。冷凍食品、レトルト食品、ウェルネス食品を通じて、常に独自能力を磨き卓越した価値を創造することで、世界で最も信頼される食品企業を目指します。

株式会社ニチレイフレッシュ

［水産・畜産事業］

代表取締役社長：金子 義史　資本金：8,000百万円

グローバルな調達機能を活かし、「鮮度」「おいしさ」「安全」「安心」「健康」「環境にやさしい」をキーワードに、水産品・畜産品の「こだわり素材」の開発を進めています。あわせて「持続可能性」を念頭に、資源や環境にも配慮。より高い「生活者価値の創出」を通じて、お客様の期待にお応えできるよう、新たな事業分野への挑戦や社会との調和にも積極的に取り組んでいます。

株式会社ニチレイロジグループ本社

［低温物流事業］

代表取締役社長：松田 浩　資本金：20,000百万円

輸配送を軸とした物流ネットワーク事業と、冷蔵倉庫機能を担う地域保管事業、欧州・中国・タイに展開している海外事業、低温物流施設の企画・設計から運営管理までを行うエンジニアリング事業で構成される国内最大規模の低温物流企業グループです。高度な物流情報システムで結ばれた輸配送、保管、流通加工から、物流センターの設計・施工・メンテナンスにいたるまで、サプライチェーン全体にわたって高品質なサービスをご提供することで、荷主企業様の物流最適化に貢献し、日本の「食」を支え続けています。

株式会社ニチレイバイオサイエンス

［バイオサイエンス事業］

代表取締役社長：武永 正人　資本金：450百万円

バイオテクノロジーを通じて、一人でも多くの方の心と身体の健康に貢献するために、お客様が求める新たな価値を提供することをミッションとしています。また、セルバイオロジー分野とニチレイグループの素材調達力を生かした機能性素材を事業分野とし、高品質の製品・サービスを提供することにより医療、健康、バイオ産業の発展に貢献する専門性に秀でた技術指向型企業を目指しています。

ニチレイグループの企業経営理念（ミッションステイトメント）

ミッション

くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する

ニチレイグループは、人々のくらしに本当に役立つ商品やサービスを一生懸命に創り出し、健康でこころの豊かな生活の実現に貢献します。

ビジョン

ニチレイグループは、卓越した食品と物流のネットワークを備える「食のフロンティアカンパニー」として、お客様にご満足いただける優れた品質と価値ある商品・サービスを創造・提供し、広く好感と信頼を寄せられる企業として、社会とともに成長します。

発想と行動の原点

ひたすらお客様のために！

経営姿勢

1. お客様第一、安全第一、品質第一を貫く
2. 健全な利益を追求する
3. 付加価値を適正に配分する
4. 法と社会の秩序を守る
5. 公正な競争に徹する
6. 透明性の高い経営を推進する
7. 資源と環境を大切にする
8. 世界を見据える

ステークホルダーのために

お客様に

ニチレイグループは、究極のお客様である生活者の方々に、真に役立つ商品とサービスを開発し、提供し続けます。そして、お客様と当企業グループが、共に繁栄できることを願って、永続的な相互信頼関係を築きます。

株主・投資家に

ニチレイグループは、より収益性の高い事業を選定・遂行して資本効率を高め、企業価値の向上を実現します。また、株主・投資家の方々に適正な還元を行います。

ビジネスパートナーに

ニチレイグループは、ビジネスパートナーの方々に、イコールパートナーとして公正な姿勢で臨み、信頼関係を築き、共存共栄を目指して相互発展に努めます。

従業員に

ニチレイグループは、従業員こそ企業発展の源であると考え、会社の仕事が従業員一人一人にとってやり甲斐のあるものであり、自己実現の場の一つとなることを願っています。同時に、従業員個人の尊厳と個性の発揮並びに個人生活の充実を尊重します。そのために、能力開発と能力発揮の機会の提供、能力と努力と成果に見合った処遇制の実施、安全で風通し良く活性化された職場環境づくりを行います。また、性別・年齢・学歴・人種・宗教などに関する差別的な行為を防止し、待遇の機会均等を実現します。

社会に

ニチレイグループは、地域社会に企業市民として参加し、事業活動を通じて社会の発展に貢献するとともに、ハンディキャップをもつ人々への支援や文化活動などへの参加と支援を継続的に行います。

コミュニケーションメッセージ

おいしい瞬間を届けたい

ブランドステートメント

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。

ニチレイは、品質へのあくなきこだわりと、培われた技術、
新しいアイデア、グループトータルのネットワークによって、
新鮮で、健康なおいしさをお届けし、笑顔のあふれる食卓を創り出していきます。

CSR推進体制

ニチレイグループの横断的なCSR推進のために、持株会社全体をCSR本部とし、代表取締役社長が本部長を兼務しています。CSR本部では、取締役会の諮問機関として設置している各委員会で審議された情報の共有やCSR活動のレビューを行い、次年度の改善につなげています。

ニチレイグループ「6つの責任」

ニチレイグループは、経済的・環境的・社会的側面に配慮した事業活動を通じて、
ステークホルダーの皆さまのさまざまな要請や期待に応えていきます。
グループの方向性を明確にし、さらなる企業価値の向上と持続可能な社会への貢献を目指していきます。

新たな顧客価値の創造
新たな商品やサービスを創り出し、生活者の課題解決をする

働きがいの向上
従業員の働きがいを高める

コンプライアンスの徹底
法律や規制を守り、倫理性を高める

コーポレートガバナンスの確立
透明で迅速な経営を行う

環境への配慮
地球環境の負荷を低減する

ニチレイらしい社会貢献の推進
「食」「健康」「スポーツ」をキーワードとした従業員参加型の社会貢献の推進

～「おいしい瞬間を届けたい」～
その想いで取り組むニチレイグループの活動

ニチレイグループのコミュニケーションメッセージ「おいしい瞬間を届けたい」、その想いをカタチにするために、私たちは「6つの責任」に加え「商品・サービスの安全・信頼」「持続可能な調達」に取り組んでいます。当社グループは新鮮で、健康なおいしさをお届けし、笑顔のあふれる食卓を創り出していきます。また、当社グループ一体となって、地球と社会の持続的な発展に貢献を果たす企業を目指します。

トップメッセージ

真摯な心でお客様と社会に向き合い、「100年続く企業」へと持続的成長を目指します

ニチレイグループは、「くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する」というミッションのもと、食に関わるさまざまな事業を展開し、「健康でこころの豊かな生活の実現」への貢献を目指しています。

2015年度、私たちは創立70周年という大きな節目の年を迎えました。振り返ればニチレイグループの歴史は、戦後復興から高度成長、安定成長へと移行してきた日本の歩みとともにありました。二度のオイルショックやバブル崩壊、デフレの時代など、ときには厳しい荒波を経験しながらも、連綿と事業を営むことができたのは、各時代の経営者や従業員たちがそれぞれの立場から、お客様である「生活者」に真摯に向き合うことで変化に対応し、新たな事業領域を切り拓いてきたからこそと考えます。

人々の暮らしの基本となる食に関わる商品・サービスを通じて社会に貢献するという、グループに根付いた志は今も昔も変わりません。本CSRレポートは、そうした私たちの取り組みをご報告し、広くご意見をいただくために発行しました。

Q 新中期経営計画「POWER UP 2018」がスタート。事業とCSRの関わりをお聞かせください。

A 前中期経営計画「RISING 2015」の最終年度である2015年度は、おかげさまで過去最高益を達成することができました。新たにスタートした2016年度-2018年度中期経営計画「POWER UP 2018」では、グループの基盤強化を着実に進め、持続的成長に向けた底力をつけることを目指します。

ニチレイグループでは、事業を通じて社会に貢献することに企業の存在価値があると考えており、その姿勢は「POWER UP 2018」においても変わりません。「くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する」というミッションの実現が、日々の事業活動の目的であり、それはそのままCSRの実践にも重なるものです。

これまでにもCSR基本方針である「6つの責任」を定めて取り組んできましたが、社会の変化や時代の要請を踏まえ、食の安全・信頼や持続可能な調達を考慮し「6つの責任」の改定を進めます。新たなCSR基本方針のもと、CSRの取り組み体制を再整備した上で、あらゆる活動において幅広いステークホルダーの皆さまからの期待に応えていきます。

中期経営計画「POWER UP 2018」（2016年度～2018年度）

1. 持続的な利益成長と資本効率の向上を確かなものとする。
2. 海外事業は引き続き規模拡大を追求する。
3. グループ全体の品質保証力のさらなる向上を図る。
4. コーポレートガバナンスなどESG（環境・社会・ガバナンス）関連の取り組みを引き続き強化する。
5. 多様な人財の活躍推進に注力する。

Q 持続可能な社会の実現に向けた、ニチレイグループの基本姿勢をお伺いします。

A グローバル化の進展により地球は狭くなり、環境変化のスピードは加速度的に増しています。2015年12月には、COP21において国際的な温暖化対策の枠組み「パリ協定」が採択されました。持続可能な社会への意識は世界で高まり続けており、ニチレイグループとしても事業の中でしっかり責任を果たしていかなければなりません。

折しも2015年度は、コーポレートガバナンス・コードの適用初年度でもありました。投資家の皆さまからも長期的な企業価値向上への要請が高まっており、ESG（環境・社会・ガバナンス）への対応はもはや企業として欠かせない条件になっているのを感じます。

環境保全の分野では、当社グループはこれまでにも事業に伴う温室効果ガス排出量の削減や、資源の有効利用を推進してきました。自然の恵みを受けた事業を営む以上、調達から生産、物流、販売までのバリューチェーン全体での環境負荷の低減は当然のこととして取り組まなければならないと考えます。

また近年は、国内外で大手企業による不祥事が頻発し、改めて企業姿勢が問い直されています。当社グループでは、2015年10月にコーポレートガバナンス基本方針を制定しました。社会から広く信頼を寄せられる企業グループを目指し、この方針のもと、公正で透明性の高い経営を推進していきます。

理念と利益を両立させ、ステークホルダーに新たな価値を提供し続けることが、ニチレイグループの社会的使命であると考えています。

Q 特に、食に関わる企業グループとして果たすべき役割をどう考えますか。

A ここ数年、食品業界では異物混入や偽装表示などの事件が発生し大きく社会を騒がせました。食を扱う事業を営むニチレイグループにとって、その安全・安心を確実に守ることは最優先すべき使命の一つです。グループ全体で「食品安全(フードセーフティ)」や「食品防御(フードディフェンス)」、有事の迅速な情報発信を行う「食品危機管理」を強化するとともに、加工食品事業を担うニチレイフーズでは、ICタグの導入や検証カメラの設置などハード面の整備も実施しました。

また、日本は食料自給率が低い一方で食品廃棄率が高いという問題を抱えており、フードロスへの取り組みも欠かせません。ニチレイフーズでは、業界に先駆けて2005年度からフードバンク活動に参加するほか、製造工程で発生する残さ(生ごみ)を肥料としてリサイクルするなど、最終処分廃棄物の削減に取り組んでいます。

2015年度は、当社グループ会社が廃棄依頼をした品が委託先の企業から不正に転売されるという事件がありました。これを機に、当社グループでは産業廃棄物委託のプロセスを見直し、新規はもとより現在処理を委託している取引先に対しても改めて点検を行いました。製品の廃棄方法についても、原則として包材から取り出して排出すること、やむを得ず包材を開封できない場合は廃棄現場に従業員が立ち会うなどの方法で、確実に処理されたことを確認することなどを定めました。

食を運ぶインフラ企業として、食品を必要なときに必要な場所へお届けすることも当社グループが担う重要な役割です。低温物流事業では運送規制が強化される中、長距離輸送の中継拠点の整備や、定時発着・定時運行の徹底などで協力会社と連携し、法令遵守に努めています。

Q 2018年度のあるべき姿と、その実現に向けて注力する取り組みを教えてください。

A 事業を通じて社会課題の解決に貢献するとともに、国内事業での利益成長と海外事業での規模拡大を達成していること、また、将来に向けて持続的な成長ドライバーとなり得る萌芽を見出していることが、2018年度末までに実現すべきグループの姿です。

国内は成熟市場といわれながらも、ライフスタイルや世帯構成の変化などに伴い食へのニーズは変わり続けています。2015年にはTPP(環太平洋パートナーシップ)協定が大筋合意され、モノやサービスの流通に大きな変化が生まれる可能性が高まっています。市場への感度を高め、生活者の期待に応えた商品・サービスを開発していくことが重要です。

一方、伸びゆく市場となる海外事業では、全方位的な展開ではなく、グループの強みを活かせる拠点を慎重に検討・選定した上で資源を集中投下していきます。

また、グループ経営力の強化も大きなテーマとして、グループ横断的な課題に取り組んでいきます。全体戦略や人事・技術・品質・財務・環境などに関わる機能戦略を、持株会社としてニチレイが担い、各事業会社に展開することで、それぞれの事業戦略の中へと落とし込んでいきます。

具体的には人財価値の最大化によってグループの活力を高めるため、「POWER UP 2018」では健康経営を掲げており、従業員が心身ともに健康に働き続けられるようワーク・ライフ・バランスの尊重やストレスケアにも重点を置いています。

また、多様な人財の活躍推進も欠かせません。当社グループでは全従業員の4割が女性という要員構成を踏まえ、管理職への登用やプロフェッショナル人財としての育成を進めています。さまざまな背景・考え方を持つ人々が同じ方向に向かっていくプロセスは易しいものではありませんが、議論を重ね、理解に至るプロセスは企業に革新を生み出す力となるでしょう。これからもグループの成長を支える人財の獲得・育成に努めていきます。

重要なのは、個人の成長と組織の成長を一致させていくことであり、従業員一人ひとりが高いモチベーションとやりがいを持って働き、自らを高めていくことが、企業の成長への原動力になるのだと確信しています。

Q 「100年続く企業」を目指すにあたってのビジョンをお聞かせください。

A 創立100周年も、そしてその先も、生活者一人ひとりの笑顔をつくり続けていることが大切です。ニチレイグループらしい「真摯な心」で暮らしを日々見つめていれば、小さな兆しを確実に捉えることができ、時代の大きな変化に適応する力に変えていけるはずです。こうした姿勢こそが、当社グループの発展を支えてきたものであり、今後も受け継いでいくべきDNAだと考えています。

従業員には、グループの一員として真面目さやひたむきさを忘れず、自律性を大切にしてほしいと望んでいます。順調なときも逆風に晒されるときもありますが、どのような状況下でも、持てる能力・資源を最大限に活かし、自ら判断して行動し、結果への責任をとること。そんな自律的な人財が世界で戦える企業を育てるのです。

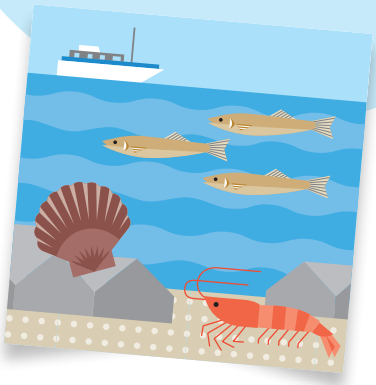
ニチレイグループは、今後も一人ひとりが高い志のもと、日々努力や創意工夫を積み重ね、「100年続く企業」を目指して前進していきます。ステークホルダーの皆さまには、変わらぬご支援をお願い申し上げます。

1 安全・安心な商品をお届けするためのニチレイグループのこだわり

特集：

「おいしい瞬間を届けたい」を実践するために

2 持続可能な調達を目指したニチレイグループの取り組み



3 社内の対話を重視したコミュニケーション活動

特集1: 安全・安心な商品をお届けす

冷凍食品のパイオニアとして、魅力ある商品を食卓にお届けするニチレイフーズ。生産現場での品質や環境をめぐる取り組みを外部からの視点で見ていただくため、立教大学経営学部教授の高岡 美佳氏をお迎えし、船橋第二工場にてロングセラー商品「ミニハンバーグ」の生産ラインを見学していただきました。

工場に入るまで

3段階でのセキュリティ確保

敷地内、建物内、生産エリア内の3段階で、セキュリティレベルに応じた入退管理を行っています。すべての人はICタグがなければ敷地内に入れず、従業員であっても建物内で不要な場所に立ち入ることがないよう、ICタグによって移動エリアを制限しています。また、入退場を自動的に記録し、一定期間保存しています。

異物混入を防ぐための衛生チェック

工場内へ入る前に、従業員は髪をすべてネットで覆ってから帽子をかぶり、持ち込みによる異物混入を防ぐため、ポケットや金具のない衛生服に着替えます。さらに、ローラーを使って小さなほこりまで念入りに取り除き、エアーシャワーを浴びて、手洗い・アルコール消毒を実施。防虫対策の一つとして、工場に続く通路には、虫の侵入を防ぐライトを使用しています。

工場内

PASで原材料を一元管理

原材料

→ → →

成形 加熱

→ → → →

ふっくら焼きあがる「ミニハンバーグ」

野菜や肉などの原材料は、事前に人の目でチェックしたうえで工場内に搬入されます。虫などの混入を避けるため段ボールは専用の開梱室で開かれ、原材料一袋ごとにバーコードを貼付します。バーコードには賞味期限や使用する商品などの情報が登録されており、PAS(プロダクション・アシスタンス・システム)で一元管理しています。

Q PASとは?

A ニチレイフーズが独自に開発した品質・生産管理システムです。原材料から商品までのすべての作業工程を記録し、トレーサビリティを確保します。また、従業員は各工程で画面上に表示されるナビゲーションを確認しながら作業します。原材料や配合、手順に誤りがあれば生産機器を止めてミスを防ぎます。

「ミニハンバーグ」ではダブルベルトグリル焼成とマルチスチーマーを使った新製法により、「外はこんがり・中はふっくらジューシー」な品質を実現。衛生面への配慮から、生の原材料を扱う未加熱区と、焼き工程以後の加熱区を、更衣室や通路、出入り口も含めて完全分離し、ICタグで通過認証をしています。加熱工程では、加熱機器を集約し完全に自動化することで、人の出入りを減らし、労働環境の改善を図ることができました。また、空調の使用を抑え、省エネにつなげています。

Q 工場内に15分ごとに流れる音楽は何ですか?

A 従業員への手袋チェックの合図です。手袋に破損が見つかった場合、破損部分が発見されるまで、直前の15分間に生産した商品を徹底的に調べます。

工場編 船橋第二工場見学
安全・安心とおいしさへの工場のこだわり

るためのニチレイグループのこだわり

見学を終えて

高岡氏からのご意見

ここまで自動化・高度化された工場は食品業界の中でも珍しく、工場の清潔さに驚きました。PASによる生産管理をはじめ、品質向上と生産性向上がイコールになるものづくりができているのが素晴らしいと思います。環境面でも、無人化による空調カットや食品残さのリサイクルなど、さまざまな工夫が見られます。工場は、商品の安全・安心、環境負荷の軽減、自社の業績への貢献、そして消費者に喜ばれるおいしいものづくりといったすべてを満たすことが求められる重要な役割があり、今後もそれらを意識した取り組みを続けていただきたいです。

立教大学
経営学部教授
高岡 美佳氏

工場長からの回答

船橋第二工場は、建設当初から品質向上、環境への配慮、生産の効率化というコンセプトのもと、各部門が意見や知恵を出し合い検討を重ねて完成させた工場です。品質や環境だけを重視して生産性を落としてしまうのでは事業として続かず、それらすべてを兼ね備えたシステムが大きな特徴だと考えています。

また当社では、設備・施設の充実だけでなく、「人」への配慮を重視し、新人の従業員が働きやすい環境づくりや、経営層と従業員との対話などを推進してきました。挨拶をはじめ職場での信頼関係を大切に考え、食の安全・安心とていねいなものづくりをしっかり守っていきます。

執行役員
生産統括部長
加藤 達志
（取材当時：執行役員
船橋工場／
船橋第二工場長）

→ 冷凍

冷凍後の「ミニハンバーグ」を前に説明を受ける高岡氏

→→→

検品
包装

「ミニハンバーグ」のできあがり！

おいしさを逃がさないように、商品を急速冷凍します。凍結設備にはノンフロンで環境負荷の少ない自然冷媒の冷凍機を使用しています。さらに、複数のフリーザーと冷凍機を組み合わせたセントラルマルチユニット方式により、従来に比べて消費電力を15%削減しています。

Q フードディフェンス対策の具体例は？

A 従業員との信頼関係をつくることが第一です。ニチレイフーズでは2011年度から経営層と従業員とが対話する「あぐら」を開始。これまで延べ4,200名以上が参加するなど意見交換の機会が定着しています。その上で「不審行動がない」ことを証明するため各工程に検証カメラを設置。商品の賞味期限内はデータを保存し、履歴を確認できるようにしています。

商品は、形状や異物の混入がないことを機械と人の目でダブルチェックしたのち包装工程へ。さらに包装後の完成した商品にも、X線による検査を行います。

商品にできなかったものは、外部業者に委託して肥料などに再利用しています。

容器包装の改良も継続的に行っており、「ミニハンバーグ」では超音波シールによる新パッケージを2014年3月より採用。熱で溶かして接着していた従来方式に比べ、フィルム材使用量を4%（年間2.3トン）削減しました。

超音波シール方式採用により
フィルム材使用量削減

特集1: 安全・安心な商品をお届けす

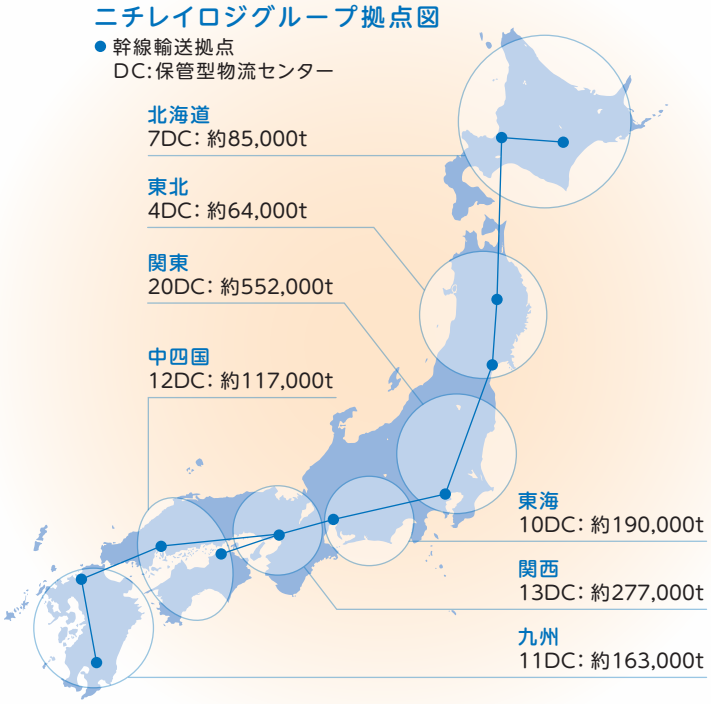
低温物流事業を担うニチレイロジグループは、効率化や環境配慮などさまざまな時代のニーズにも応えながら食品の安定供給を続けています。グループ最大の収容能力を持つ(株)ロジスティクス・ネットワーク関東支店船橋物流センターを、引き続き流通システムの専門家でもある高岡 美佳氏に見学していただきました。

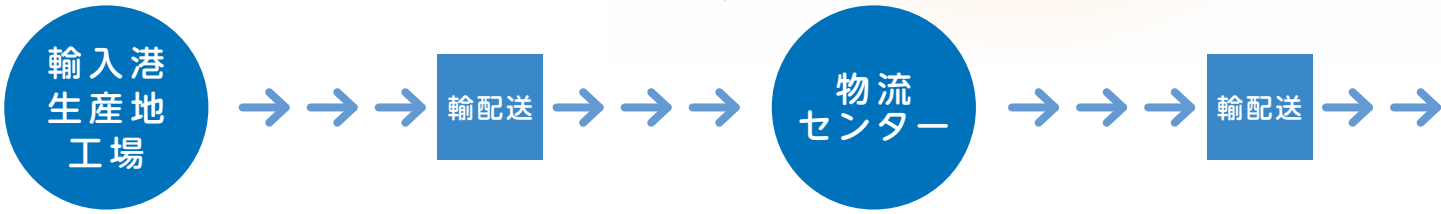
コールドチェーンをつなぐ日本最大の低温物流ネットワーク

食のインフラを支えるニチレイロジグループ。輸配送を主に担う物流ネットワーク事業と、冷蔵倉庫での保管を担う地域保管事業を軸に、産地から卸売、小売、消費者までを切れ目なくつなぐコールドチェーンを構築しています。

食品物流の中でも厳しい温度管理が求められる低温物流において、ニチレイロジグループは国内外128ヶ所の拠点で約190万トンの冷蔵保管能力を持ち、その業界シェアは日本で1位、世界でも5位を誇ります。また、ニチレイロジグループの強みである輸配送機能では、全国の主要拠点をつなぐ幹線便と、きめ細かい地域配送便網を組み合わせた、独自のネットワークを展開。お客様の必要なとき、必要なところへ安全に商品をお届けしています。

ニチレイロジグループ拠点図





日本一の保管能力と幅広い対応力

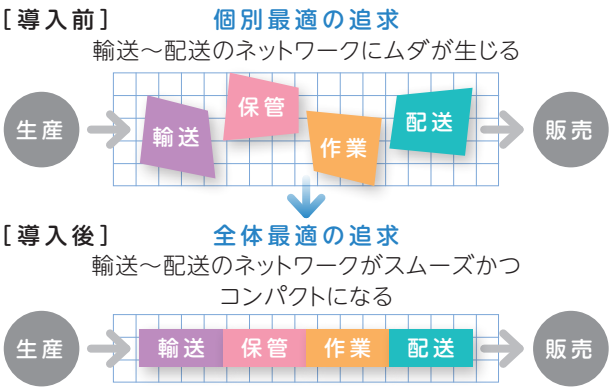
全国77ヶ所の保管型物流センター(DC)では、商品を冷蔵・冷凍状態で長期間品質を損なわずに保管し、商品の需要と供給を調整する役割も果たします。船橋物流センターもその一つです。お預かりした商品は冷蔵倉庫内で、集中管理システムにより最適な温度で管理されています。また、お客様のご要望に応じて各種流通加工を行うなどきめ細かいサービスをご提供しています。

物流を最適化する3PLを展開

ニチレイロジグループは、食品物流の3PL(サード・パーティ・ロジスティクス)のパイオニアとして、食品業界のさまざまなお客様に最適な物流をご提供しています。3PLとは、お客様の物流全体を一括して請負い、最適化・効率化を実現するサービスです。輸配送や保管にかかるさまざまなムダを省き、物流コストの削減や納品リードタイムの短縮、在庫の最適化などを実現します。

3PL事業者として、ニチレイロジグループでは物流の共同化に積極的に取り組んでいます。複数メーカーの在庫を一つの冷蔵倉庫に集約したり、荷物を積み合わせてお届け先に共同配送することで、コスト削減はもちろん、環境負荷軽減にも大きく貢献しています。

3PLによる物流の効率化



物流編　船橋物流センター見学

「食」のインフラ企業として、多様な物流ニーズに応える

るためのニチレイグループのこだわり

厳密な温度管理による品質維持

食品のおいしさと安全の鍵は温度管理です。物流センターでは幅広い保管温度帯に対応した施設・設備を充実させ、保管・輸配送の各段階で、厳密な温度管理をしています。また、冷凍前の商品をお預かりし急速凍結するご要望にも対応。通常の凍結に比べ、食品の細胞破壊が少なく風味の劣化を防ぐことで、フードロスの発生を削減し、食品の安定供給にも寄与しています。

冷蔵倉庫

最適加工ニーズに応える高周波解凍

お客様のニーズに合わせ、配送前に冷凍品を解凍し、加工に適した状態でお届けしています。冷凍品の内部で熱を発生させて温める高周波解凍では、大きな肉のかたまりでも短時間でムラなく均一に解凍します。商品の鮮度を落とさず、また、肉汁などのうまみ成分の流出を抑えるため、食品の歩留まりが高まります。船橋物流センターでは日産30トンまでの解凍に対応しています。

→ 店舗

省エネ型自然冷媒の冷凍設備

環境対策の一環として、船橋物流センターでは、新設した冷蔵倉庫において自然冷媒であるアンモニアを使用した省エネ型冷凍設備を採用。従来比20%の温室効果ガス排出量の削減につなげています。

アンモニアを使用した省エネ型冷凍設備

陽圧システムで外気の流入を防ぐ

入出庫時、トラックを接車して搬入・搬出を行う荷捌室は、常に摂氏5度以下を保ったクローズドデッキとなっています。また、荷捌室の内部を陽圧(外気圧よりも圧力が高い状態)化して戸外への気流をつくることで、外気やほこりの侵入と、温度上昇や結露を防いでいます。また、庫内の搬送・作業を効率的に行えるよう、垂直搬送機やフォークリフトを導入しています。

フォークリフト(左)と垂直搬送機

クローズドデッキに接車するトラック

見学を終えて

高岡氏からのご意見

新設された建物を拝見し、環境や安全性への配慮が設計段階から組み込まれていることを実感しました。オールLEDの照明や自然冷媒の冷凍設備、入室時の顔認証システムなど極めて先進的で、従来の物流倉庫のイメージを一新するような高いレベルにあると思います。

貴グループでは車両を持たず輸配送を協力会社に委託している場合が多いとのことですが、今後は委託会社の管理もますます重要になるでしょう。商品の品質維持はもちろん、車両走行の安全性や環境配慮を委託会社の選定基準に盛り込むなど、食品物流をリードする企業として、業界の新たなスタンダードを生み出すような取り組みに期待します。

立教大学
経営学部教授
高岡 美佳氏

顔認証システムで入室を管理

物流センター長からの回答

お客様に最適な物流サービスを提供するためには、倉庫内業務のみならず、輸配送においても品質を守りながら効率化を進めることが欠かせません。委託会社との協力のもと、数年前からダイヤ通りの「定時定発」を強化し、ドライバーの待ち時間の削減などに取り組んできました。

委託会社は、当グループが求める品質基準を条件に選定し、運送中の事故やコンプライアンス違反の有無を含めた定期的な品質チェックを行っていますが、ご指摘のように環境対応の視点を委託会社にまで広げることは、今後の課題の一つだと感じています。ありがとうございました。

(株)ロジスティクス・ネットワーク
執行役員
船橋物流センター所長
芳村 暢夫

特集2: 持続可能な調達を目指した

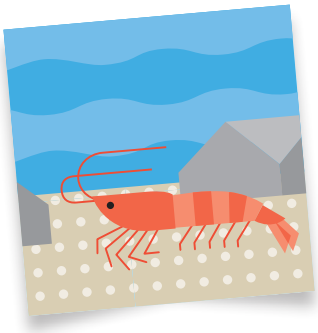
ニチレイグループが、食の安全・信頼と並んで重視しているのが環境に配慮した持続可能な調達です。原材料の調達先が世界中に幅広く分布している今、各地域の社会的な背景を踏まえた事業活動が大切と考え、パートナー企業などと連携した調達活動を進めています。

10周年を迎えた「生命(いのち)の森プロジェクト」！ ［ニチレイフレッシュ］

マングローブ植樹への寄付を通じて持続可能な調達に貢献

ニチレイフレッシュが養殖えびの調達先であるPT. Mustika Minanusa Aurora(MMA)社およびインドネシア・北カリマンタン州タラカン市と協同で開始した「生命の森プロジェクト」が10周年を迎えました。ニチレイフレッシュは1995年に「集約養殖」に比べ環境への負荷が少ない「粗放養殖」を手がけるMMA社からブラックタイガーえびの調達・販売を本格的に始めました。養殖池はマングローブを伐採してつくられますが、その生態系の回復に貢献したいと考え、2006年にMMA社の「マングローブ基金」に収益の一部を寄付する「生命の森プロジェクト」を開始。このプロジェクトを通じてマングローブの植樹活動を行い、持続可能な調達だけでなく、タラカン市における着実な自然環境の保護・生態系の保全に貢献しています。

Q 自然の地形を活かした「粗放養殖」のメリットは？



A えびの養殖で一般的なのは、約0.3～1ヘクタールの人工の養殖池に多くの稚えびを投入し、飼料を与える「集約養殖」と呼ばれる方法。より多くのえびを短期間で収穫できますが、養殖池の維持などで環境に大きな負荷がかかります。一方、10ヘクタール以上の養殖池で稚えびの投入密度を抑えてえびを育てる伝統的「粗放養殖」は飼料を与えず自然プランクトンなどを食べて育つため、土壌への負荷や病害リスクが少ない上に、えびが大きく育つというメリットがあります。えびをほぼ自然に近い環境で育てるこの伝統的えび養殖を、循環型の永続的な活動として取り組んでいきたいと考えています。

大きく育ったえび

水揚げされたえび

Q マングローブを植樹したことによる効果は？

A MMA社の「マングローブ基金」への寄付を通じて実現した植樹活動の結果、マングローブ林が回復することで、鳥やカニ、小魚が増えました。また、かつてこの地からいなくなったテングザルも、外部から連れてきたものが自然繁殖して定着するなど、生態系の回復にもつながっています。

2011年度植樹

2012年度植樹

2013年度植樹

2014年度植樹
(2015年3月のもの)

これまでに東京ドーム
約65個分の
面積に植樹を実施!

活動開始から10年。
トータルの植樹エリアは
約302ヘクタールに達しています。
これは東京ドームの約65個分に
相当する面積です。
(2014年11月時点)

ニチレイグループの取り組み

地域との連携による環境・社会への貢献

「マングローブ基金」を通じた植樹活動は、地道ながら着実にタラカン市への貢献に結びついています。マングローブ林の一部は地元タラカン市の公園として整備され、地域の人たちの憩いの場となっています。また、ボルネオ大学の研究対象として活用され、学生と共同で「マングローブ植樹ツアー」が定期的に実施されるようになりました。この植樹の取り組みが評価され、2016年3月にタラカン市からMMA社の「マングローブ基金」および「生命の森プロジェクト」へ感謝状が贈られました。マングローブが生い茂っているエリアには、植樹活動によって実現したことを記したプレートも設置されています。

食と地球の未来を見据えたこの「生命の森プロジェクト」の発展に向けて、今後も継続して取り組んでいきます。

タラカン市長の声

タラカン市長
M.Si, SOFIAN RAGA氏

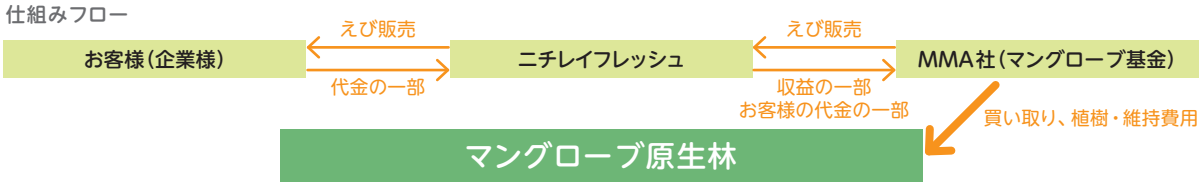
ニチレイフレッシュおよびMMA社にはタラカン市内および周辺のマングローブ植樹活動への寄付をいただき感謝申し上げます。10年間におよぶその活動は、地域の環境と生態系の再生に大きく貢献しました。

タラカン市は、City of Green Tarakanという目標のもと、2014～2019年まで環境再生事業を最優先課題として取り組んでいますので、今後もぜひ植樹活動を継続していただけることを希求いたします。私たちも貴社の活動に協力していきたいと考えています。

マングローブ植林の仕組み

生産されるえびの販売収益の一部が、MMA社の「マングローブ基金」を通じ、環境保全活動費用に充てられています。

仕組みフロー



お客様に、粗放養殖えびを購入いただければ、それだけ原生林の保全活動が進む仕組みです。
このサイクルを回し続けることが大切と考えています。

パートナー企業との連携によるCSR調達！［ニチレイフーズ］

CSR活動の考えにもとづいた調達を推進

ニチレイフーズは、ニチレイグループ「6つの責任」の考えにもとづき、事業活動を行うとともに、事業を通じたCSR活動を推進していきます。取り引きにあたっては、下記5項目を基本方針として掲げています。

ニチレイフーズ「5つの基本方針」

1. 私たちは、複数のお取引先様に対して公平に窓口を開放します。
2. 私たちは、国内外の諸法規を遵守し、企業倫理に基づいた公正な取引をおこないます。
3. 私たちは、調達活動を通じて得た情報は厳格に管理します。
4. 私たちは、環境への影響に十分配慮します。
5. 私たちは、市場ニーズに応えるためQCD（品質、コスト、供給）を追求します。

調達段階での社会的責任を果たすため、取引先であるパートナー企業のご支援・ご協力のもと、以下の6要件について遵守を求めています。また、工場品質監査時に重点項目のチェックを実施するとともに、チェックシートによる工場のセルフチェックも行っています。

ニチレイフーズ、遵守を求める「6つの要件」

- ニチレイフーズに供給する製品の品質、価格、納期が適正水準にある。
- 基本的人権を尊重し、従業員の労働安全確保に努める。
- 環境に配慮した製品・サービスの提供に努める。
- 公正な事業活動を行い、法令を遵守する。
- 情報は適切に管理するとともに、事業活動に関わる情報の適時・適切な開示に努める。
- 企業市民として、社会貢献活動に取り組む姿勢がある。

特集3: 社内の対話を重視したコミ

ニチレイグループが「6つの責任」の一つとして推進しているのが「働きがいの向上」です。従業員一人ひとりの成長の総和こそが企業の成長と考え、グループ各社の風土と文化を活かし「対話」を重視したコミュニケーション活動を展開しています。

ニチレイフーズの「あぐら」

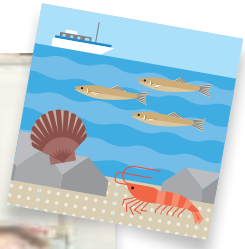
ニチレイフーズでは2011年度から経営層と従業員とが対話をする「あぐら」を開始。2013年度には海外事業所でも実施し、これまで延べ4,200名以上が参加するなど意見交換の機会が定着しています。

具体的な内容と目的

ミッション、ビジョン、行動指針を従業員が共有し、経営層が社内の声を聞くことを目的に、1回当たりの参加者数を少人数にして全員が発言できる雰囲気づくりを重視して開催しています。この取り組みは、社内風土をはじめ部門間の連携やコミュニケーションのあり方、各部署での課題など幅広いテーマで意見を交わす貴重な機会になっています。回数を重ねるごとに話しやすい雰囲気へと変わり、従業員同士も理解や共感が広がっている手ごたえを感じているようです。「あぐら」の対象者を海外の事業所や生産工場のパート社員などに広げ、従業員の声を業務改善や仕組みの改善へと反映させて、明るく元気で風通しの良い職場づくりにつなげていきたいと考えています。

対話の効果

2012年度の「あぐら」では物流品質改善の声が多く寄せられたことから、ニチレイフーズ従業員のモットーである「ハミダス(とらわれず・明るく)」を冠した「ハミダス物流改善プロジェクト」を発足させ、改善につなげました。また、2013年度には社内の疑問や問い合わせに応える「ハミダス情報相談室」を設けるなど、「ハミダス活動」が定着しつつあります。2014年度からは「あぐら」への参加対象者を、各生産工場のエキスパート社員にも拡大。全国11ヶ所の工場でも実施しました。「従業員の声」は組織改正や人事制度に反映するなど、風通しの良い活性化された職場づくりに取り組んでいます。



ニチレイフレッシュの「車座」「トップミーティング」

ニチレイフレッシュでは2007年度から、経営層が経営方針や3ヶ年の中期経営計画について、従業員に直接内容を説明し意見交換などを行う「車座」のほか、社長と従業員とのコミュニケーションを目的とした「トップミーティング」を2015年度から実施しています。

具体的な内容と目的

2015年度より社長がファシリテーターを務め、従業員一人ひとりと対話する会、「トップミーティング」を開始しました。自社の「強み」や「存在意義」を確認するとともに、今後「力を注ぐべきところ」などについて従業員の意見を直接ヒアリングし、経営に反映することが目的です。初年度は、新任社長の金子が各拠点を回り、自己紹介をしながら従業員とのコミュニケーションをとることから始めました。

また、社長および経営層が全国各地の事業所や関係会社に赴いて、現状や経営方針、戦略、企業理念などを直接説明し確認しあう「車座」を、2007年度から毎年春に実施。2015年度は全国14ヶ所・20会場で開催し、全従業員が参加しました。

対話の効果

「車座」は、社長および経営層が全従業員へ年度初めに行い、現状や推進している経営戦略、企業理念を直接語ることで、会社が目指す将来像や課題などを共有する大切な場となっています。従業員同士で改めてビジョンや理念を認識・共有しあうことで理解や共感が広がり、社内のコミュニケーションがより活発になっています。

また、2016年度からは、新中期経営計画スタートの年でもあるため、従業員一人ひとりがより深く経営目標を理解し共有できるよう、社長および経営層と従業員との意見交換の時間を大切にし、士気を高めるきっかけになっています。

ュニケーション活動

ニチレイロジグループの「DCD（コーチング）プログラム」

ニチレイロジグループでは、2015年度に「DCD（コーチング）プログラム」第1期を開始。全国の「リーダー所長」が計50名の各社部署長を対象に「働きがいのある職場」に向けてのコーチングを行っています。

具体的な内容と目的

従業員一人ひとりの「働きがいのある職場」を明確にし、それに向けての取り組みを支援することを目的としています。

2015年5月から2016年2月までを第1期として、ニチレイロジグループ各社から部署長1名を「リーダー所長」として選出。リーダー所長は専門家によるコーチを受け、電話会議システムなどを活用してリーダーシップのあり方やノウハウを学びます。リーダー所長10名は、各々がニチレイロジグループ各社の部署長5名を対象に、8ヶ月間にわたって“働きがいのある職場づくり”を目標としたコーチングによるサポートを実施しました。各社計50名の部署長は、さらに自身が所属する部署内へのコーチングへと活かしています。

対話の効果

部署で年度初めに、職場内のコミュニケーション向上施策「まるごとコミュニケーション」を通じて作成された「働きがい向上アクションシート」や、当プログラムで設定した目標をもとにして、プログラムを実施しています。

この取り組みを開始してから、部署長の部員に対するコミュニケーションの回数が増え、働きがい向上に向けた取り組みが各部署で始まりました。2015年度のES（従業員満足度）調査では、働きがいに関する数値がアップしました。

また、ニチレイロジグループのES調査の結果、よい事例があがった部署に対してヒアリングを行い、その内容をグループ各社・各部署を超えて共有し、他部門にも広げていく予定です。

ニチレイバイオサイエンスの「ブラウン・バッグ・ミーティング」

ニチレイバイオサイエンスではランチタイムに部署を超えて自由にディスカッションする「ブラウン・バッグ・ミーティング」を2014年度から実施。気軽な意見交換の場として定着しつつあります。

具体的な内容と目的

「ブラウン・バッグ」とは、アメリカで一般的なサンドイッチやハンバーガーを入れる「弁当の紙袋」の意味です。ランチタイムに部署を超えたメンバーが集まって、毎回一つのテーマを決めて、食事をしながら気軽に意見交換できる機会として「ブラウン・バッグ・ミーティング」を2014年度、2015年度とも2回実施しました。通常の業務では、決まった社員同士でのコミュニケーションにとどまりがちなため、事業所や部署を超えて、幅広い世代でコミュニケーションを築くきっかけとして開始。あえて仕事や業務上のテーマを選ばず議事録も作成しないというルールを設けています。また、新入社員から社長まで幅広い部署や職種、肩書の人たちが集まれるよう工夫しています。

対話の効果

所属部署や名前は知っていても、普段は言葉を交わす機会がなかった若手とベテラン、先輩社員とが顔を合わせて気軽に話ができる取り組みとして定着しつつあります。特に若手社員にとっては、業務を通じてだけでは知る機会の少ない先輩やベテラン社員たちの意外な側面を知り、コミュニケーションがとりやすくなったという声が聞かれました。さらにベテラン社員の過去の経験などを知り、仕事で問題や課題に直面した際、具体的なアドバイスがもらえることが分かり、心強さをおぼえたという声もあります。この取り組みが定着することで、部署や世代の壁のない、風通しの良い職場の文化の定着を目指しています。

2015年度活動トピックス

ニチレイグループ全体で従業員の健康づくりに取り組み、働きがいの向上を目指します。

人は企業の重要な財産であり、従業員の健康に配慮して能力を最大限に発揮できるように努めることは、生産性の向上や収益の拡大にもつながります。ニチレイグループは、「持続的成長を目指す会社にとって、従業員の健康は重要な経営課題である」という認識のもと、2014年度より労使間で健康経営について意見交換を行い、労使協働で従業員の健康増進に取り組んでいくことに合意しました。2015年度は、人事総務部内に専任部署として「健康推進グループ」を設け、健康管理基準等を整備しました。

今後は、主な施策として健康診断に年齢・性別に応じたがん検診の項目を追加するとともに、健康診断の結果にもとづき有所見者対応を徹底していきます。また、エリア別の産業医・保健師ネットワークやストレスチェック体制の確立、個人・マネジメント層それぞれに向けた健康教育の実施、長時間労働の防止などに取り組み、従業員が安心して働ける環境を整備していきます。

ニチレイグループ健康宣言

「おいしい瞬間を届けたい」、その想いを大切に、ニチレイグループで働く一人ひとりの健康づくりに取り組みます

基本方針

1. 「働きがい」のベースには心と身体の健康があるという考えのもと、労使協働で活力ある職場づくりを推進します。
2. 従業員一人ひとりが健康意識を高め、主体的に健康増進に取り組む環境づくりに努めます。
3. 健康保持増進・メンタルヘルス対策・安全衛生管理を3つの柱とし「健康マネジメント」に取り組みます。

ニチレイフーズ

食育プログラム 出張工場見学

「工場見学に行きたいが、なかなか行けない」という小学校の先生の声と「ニチレイフーズらしい食育プログラムが欲しい」との従業員の声を受けて、従業員が学校に出向いて工場見学を体験してもらうプログラム、“出張工場見学”をつくりました。「見る!学ぶ!楽しく!」をコンセプトに、冷凍食品ができるまでの動画を活用して子どもたちにも分かりやすく伝える工夫をしています。生産現場のリアルな映像や音のほか、安全やものづくりへのこだわりなども盛り込んだ内容となっています。

(現在、公募はしていません)

ニチレイフレッシュ

食育プログラム 小学校にて「純和鶏®」を紹介

ニチレイフレッシュグループの(株)フレッシュチキン軽米では、所在地の岩手県軽米町の小学校や幼稚園で、地産地消や生産活動への理解促進のため、岩手県チキン協同組合(9組合)の皆さんと食育授業を行っています。2015年度は、軽米町立軽米小学校で「純和鶏®」を紹介する授業を実施。「純和鶏®」は軽米町産の飼料米を食べ、その鶏ふんが飼料米の有機質肥料として使われる農畜産循環型生産サイクルで育てられています。今後も地域の方とのふれあいを大切にし、食への理解を深めていきます。

ニチレイロジグループ

物流センターに社会科見学を受け入れ

全国各地の物流センターで地域の小・中学生、高校生の社会科見学を受け入れています。

児童・生徒に事業概要を紹介し、その後、物流センターの現場を一通り見学してもらうことで、食品流通の仕組みや海外とのつながり、環境への配慮など多面的な理解を促進しています。この低温物流サービスが食の安全を支え、暮らしに不可欠な存在であることを将来世代に伝えていくため、今後も引き続き全国でこの取り組みを進めていきます。

ニチレイバイオサイエンス

ミャンマーの病院への検査薬提供

2006年度から、新潟大学医学部国際保健学分野を通じ、病理検査に使われる当社製品をミャンマーの医療機関へ無償提供しています。貴重な免疫染色用の抗体は、ヤンゴン小児病院のほか、各大学に贈られ、各施設での研究や病理診断など実地の医療に活用されています。

2015年度からは、国立6大学による「ミャンマーの医学教育協力JICAプロジェクト」が開始され、2016年3月には、新潟大学のミャンマー感染症研究拠点ができました。留学のため新潟大学に来られたミャンマーの医師と帰国後の交流を契機に始まったプロジェクトの成果です。

編集方針

ニチレイグループはCSR活動を幅広いステークホルダーの皆さまにご理解いただき、コミュニケーションを深めるためにCSRレポートを作成しています。本レポートはニチレイグループの「おいしい瞬間を届けたい」という想いで取り組む当社グループの活動の中で、ステークホルダーの皆さまに特にお伝えしたい事例、安全・安心に関する取り組みや、持続可能な調達、従業員とのコミュニケーションについて特集で紹介しました。また、Webサイト・PDFでは詳細な取り組みと、パフォーマンスデータを開示しています。

● **対象期間**
2015年4月1日～2016年3月31日の活動実績を中心に掲載しています。

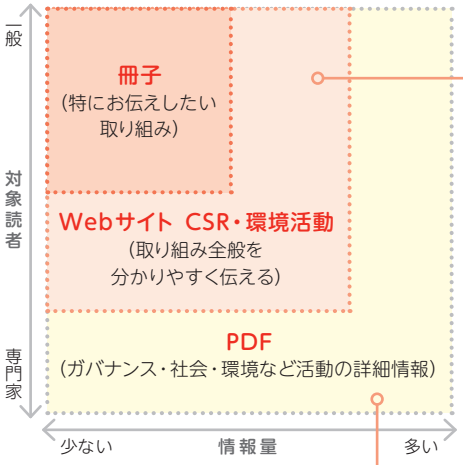
● **対象範囲**
ニチレイグループの国内事業所およびグループ会社を対象範囲として記述しています。(上記と対象範囲が異なる場合、その旨を記載しています)

● **発行月**
2016年6月

● **「CSRレポート2016」に関するお問い合わせ先**
株式会社ニチレイ 技術戦略企画部
〒104-8402
東京都中央区築地六丁目19番20号 ニチレイ東銀座ビル
TEL:03-3248-2232(ダイヤルイン)
FAX:03-3248-2150

Webサイト・PDFのご案内

ニチレイグループはCSRに関する取り組みを、冊子のほかに、WebサイトとPDFでも紹介しております。ぜひご覧ください。



Webサイト CSR・環境活動

ニチレイグループのCSRの取り組み全般を、より多くの方に、できるだけ分かりやすく実績データも交えてお伝えする構成となっています。2016年7月更新予定。

URL http://www.nichirei.co.jp/csr/

PDF

ニチレイグループのCSRの取り組み全般を、取り組みの方針やマネジメント体制なども含めて紹介しています。2016年7月掲載予定。

URL http://www.nichirei.co.jp/csr/

ニチレイグループホームページ

企業情報
http://www.nichirei.co.jp/corpo/

食品の安全・信頼
http://www.nichirei.co.jp/safety/

取り組み事例の一部は、上記ホームページで紹介しています。

株式会社ニチレイ

経営企画部
技術戦略企画部

〒104-8402 東京都中央区築地六丁目19番20号 ニチレイ東銀座ビル
TEL 03-3248-2232 FAX 03-3248-2150
URL http://www.nichirei.co.jp/

当社は年間100万kWhのグリーン電力を契約し、
本CSRレポートの印刷・製本にかかる
電力(660kWh)相当分をこの一部でまかなっています。

この報告書は、森林管理協議会(Forest Stewardship Council®)で認証された、適切に管理された森林からの原料を含むFSC®認証紙を使用しています。
インキは「VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロ」のインキを使用し、印刷は印刷工程で有害廃液を出さない「水なし印刷」で行っています。